

ポリオ(小児まひ)の  
予防接種で、未承認の海  
外品を輸入して使う医療  
機関が増えている。生ワ  
クチンではなく、より安  
全性の高い不活化ワクチ  
ンを使ってほしいとする  
患者団体などの声に後押  
しされ、「見切り発車」  
した格好だ。戦略なきワ  
クチン行政がまたほころ  
びを露呈した。

千葉県立佐原病院は2  
月、公立病院として初め  
て乳幼児を対象に不活化  
ポリオワクチンの予防接  
種を始める。既に約70人  
が申し込んでいる。松山  
剛・小児科部長は「生ワ  
クチンと不活化ワクチン  
との利点・問題点を正し  
く理解してもらい、その  
上で不活化を希望するな  
ら地域医療機関として期

## ポリオ予防接種で未承認品増加

待に込えたい」と話す。

ポリオはポリオウイル  
スが原因で発症する感染  
症で、手足にまひがでる。  
治療法はなく、ワクチン  
で防ぐしかない。

国内では1960年に  
大流行、旧ソ連などから  
生ワクチンを輸入し予防  
接種の徹底で「制圧」し

を今でも定期接種する。

生ワクチンはウイルス  
の毒性を弱めて作る。こ  
のため、まれに予防接種  
でポリオを発症する。世  
界保健機関(WHO)は  
100万人あたり2〜4  
人はかかりそう。

人としている。ウイルス  
の感染性や病原性をなく  
した不活化ワクチンだと

その心配はない。

国内でも複数の会社が  
他の感染症も同時に予防  
する混合タイプで不活化  
ポリオワクチンを開発中  
だが、承認までに2〜3  
年はかかりそう。

患者団体「ポリオの会」  
は約3万5000人の署  
名を集め、昨年12月、要

えなかったという。

佐原病院のように不活  
化ワクチンを導入する医  
療機関は現在、少なくとも  
40施設あり、この4カ  
月で1.5倍になった。  
今春までにさらに20施設

ほど増える見通し。  
ただ、自己責任による  
予防接種となり、万が一  
副作用が出た

取り組みを避けてきた。

今でも水ぼうそうやおた  
ふくかせの予防接種は公  
費助成の対象外。先進国  
でポリオの生ワクチン  
を使うのは日本ぐらいだ。

副作用が出た  
も国の補償制  
度は適用され  
ない。多くの  
小児科医は、不活化ワク  
チンの必要性を認めなが  
らも、未承認品を医療機  
関が独自の判断で使う動  
きは危ういとみる。

# ワクチン行政、戦略なく

た。80年を最後に自然感  
染例の報告はないが、海  
外から流入するリスクに  
備え、国内製生ワクチン

望書を厚生労働  
省に提出。「被  
害を繰り返さぬ  
よう、せめて国  
産品ができるま  
で不活化ワクチ  
ンを緊急輸入し  
てほしい」(代  
表の小山万里子  
氏)と訴えたが、  
聞き入れてもら

小児科医は、不活化ワク  
チンの必要性を認めなが  
らも、未承認品を医療機  
関が独自の判断で使う動  
きは危ういとみる。

日本は、  
欧米より10〜20年遅れて  
いるとされる。約20年前  
に予防接種禍訴訟で国が  
全面敗訴、以降、国はワ  
クチン問題への積極的な

えは膨らむ医療費の削減  
につながる。ワクチン問  
題に詳しい医薬基盤研究  
所の山西弘一理事長は  
「ワクチン行政に国の戦  
略がない」と批判する。  
(編集委員 矢野寿彦)



不活化ワクチンの輸入を求め  
記者会見する「ポリオの  
会」の小山氏(右端)

聞き入れてもら  
全面敗訴、以降、国はワ  
クチン問題への積極的な

えは膨らむ医療費の削減  
につながる。ワクチン問  
題に詳しい医薬基盤研究  
所の山西弘一理事長は  
「ワクチン行政に国の戦  
略がない」と批判する。  
(編集委員 矢野寿彦)